

## 気候情報

# 2004年12月の日本の天候

## 全国的に高温、上旬に大雨

### 12月の天気概況

上・中旬に寒気の流入が少なく、例年に比べて移動性高気圧に覆われることが多かった。このため、12月の平均気温はほぼ全国的に顕著な高温となった。また、例年、曇りや雨または雪の日が多い日本海側でも、北海道を除いて平年に比べ晴れる日が多くなった。上旬には台風第27号がもたらした暖湿気の影響などにより、西日本から北・東日本の太平洋側にかけての広い範囲で大雨が降った。一方、下旬には、冬型の気圧配置となることが多かった。また月末には低気圧が南岸を通過して太平洋側でも降雪・積雪が見られ、気温も全国的に平年を下回った。

**上旬：**冬型の気圧配置は現われず、気温の高い状態が続いた。移動性高気圧に覆われ、日本海側の地方でも晴れる日が多かった。4日から5日にかけて、気圧の谷と台風第27号がもたらした暖湿気により、西日本から北・東日本の太平洋側にかけての広い範囲で数10mmから100mmを超える大雨となった。**旬平均気温**は、全国的にかなり高く、平年を2℃前後上回った。**旬降水量**は、東日本日本海側で平年並となったほかは多かった。西日本、北・東日本太平洋側では平年の4～5倍とかなり多かった。**旬日照時間**は、東・西日本日本海側で多く、そのほかの地方では平年並であった。

**中旬：**高気圧、低気圧が交互に通る、上旬に引き続き気温は高かった。低気圧の影響は小さく、晴れる日が多かった。北日本では低気圧の通過にともない、北海道を中心に太平洋側でもしばしば雨や雪となった。**旬平均気温**は、全国的に高く、とくに東北以西では平年差+2～3℃と顕著であった。**旬降水量**は、北日本で多く、東日本、西日本日本海側では少なく、西日本太平洋側、南西諸島は平年並であった。**旬日照時間**は、北日本、東日本太平洋側で平年並のほかは多かった。

**下旬：**中旬末に日本付近を低気圧が通過した後、日本付近は冬型の気圧配置となることが多く、全国的に寒気が入るようになった。月末には低気圧が南岸を通過し、太平洋側でも降雪・積雪があったほか、通過後、冬型の気圧配置が強まり、日本海側で雪となった。**旬平均気温**は、北・東日本で低く、西日本、南西諸島では平年並であった。**旬降水量**は、北日本太平洋側、東日本日本海側で平年並のほかは平年を上回った。**旬日照時間**は、北東日本太平洋側で多く、東日本太平洋側で平年並のほかは少なかった。

### 12月の気候統計

**平均気温：**北海道を除いてほぼ全国的に平年を上回り、平年を1℃以上上回ったところが多かった。特に、関東甲信地方、東海地方、四国地方、九州地方では平年を2℃以上上回ったところがあった。大阪、鹿児島など20地点で12月の月平均気温の最高値を更新し、4地点でタイ記録となった。

**降水量：**東北地方の日本海側や北陸地方を除いて平

年を上回り、平年の170%以上となったところが多かった。特に、北海道から九州地方にかけての太平洋側では平年の300%以上となったところがあり、広島、岡山など10地点で12月の月降水量の最大値を更新し、1地点でタイ記録となった。

**日照時間：**北海道の日本海側と東北地方から九州地方にかけての太平洋側では平年を下回り、北海道では平年の60%以下となったところがあった。一方、そのほかの地方では平年を上回り、特に東北地方の日本海側と北陸地方では平年の140%以上のところがあった。山形と西郷（島根県）では12月の月間日照時間の最大値を更新した。

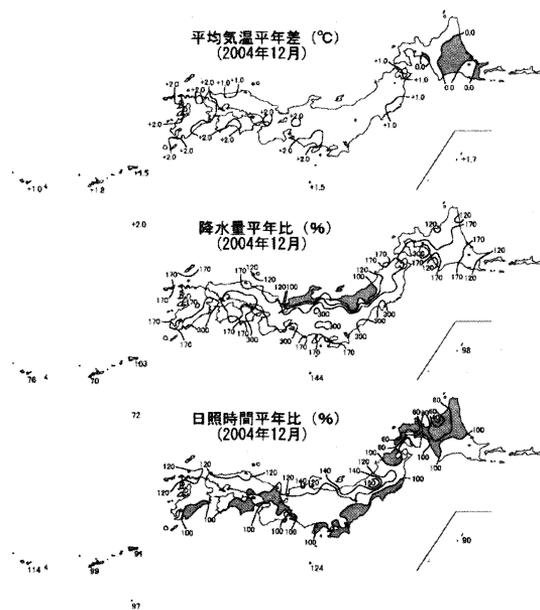
**降雪・積雪：**日本海側では降雪の深さ合計、最深積雪ともに平年を下回ったところが多かった。一方、太平洋側では、平年を上回ったところが多く、帯広（北海道）、熊谷（埼玉県）、岡山では12月の降雪の深さ月合計の最大値を更新し、1地点でタイ記録となった。

(気象庁観測部統計室)

### 12月の記録（1位更新のみ）

- ・月平均気温の高い方から(℃)  
名古屋 8.6 大阪 10.2 福岡 10.7  
鹿児島 12.9 など、20地点 タイ記録4地点
- ・月降水量の多い方から(mm)  
雄武 145.0 深浦 215.5 岡山 112.0  
広島 111.0 など10地点 1地点タイ記録
- ・月間日照時間の多い方から(時間)  
山形 106.5 西郷 121.5
- ・降雪の深さの月合計の多い方から(cm)  
帯広 135 など3地点 1地点タイ記録

### 2004年12月の平年差(比)図



注) 陰影の部分は、平年より低い(少ない)地域を示す